

パリ大津絵展開催記念

# シンポジウム

# 大

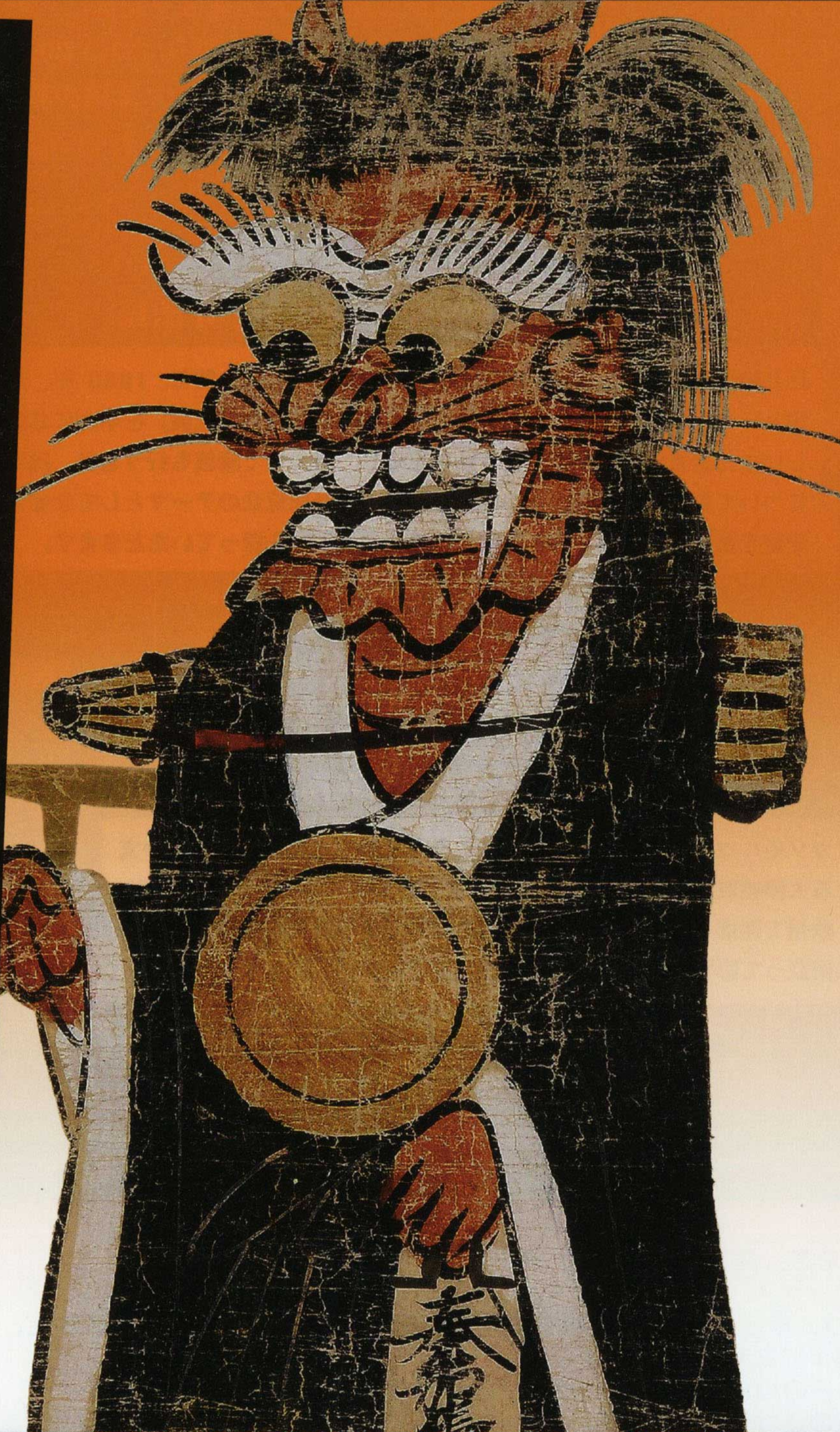
# 津絵

# ・民芸

# ・工

# ・作

# ・パ



熊倉功夫氏 (MIHO MUSEUM 館長)

クリストフ・マルケ氏 (フランス国立極東学院院長)

**会期** 2018年12月22日(土) 13時30分～16時

**会場** ピアザ淡海 ピアザホール

**主催** 大津市・大津市教育委員会・大津市歴史博物館

**協力** パリ日本文化会館

**後援** 京都新聞・NHK大津放送局・BBCびわ湖放送

**参加費** 無料 (事前申込み制・詳細は博物館まで)

大津市歴史博物館

☎077-521-2100

www.rekihaku.otsu.shiga.jp/



来年、2019年4月24日～6月15日まで、フランスのパリ日本文化会館において、ヨーロッパ初となる大規模な大津絵展「OTSU-E : imagerie populaire du Japon」が開催されます。

大津のシンボルである大津絵がヨーロッパで大々的に紹介される機会を記念し、熊倉功夫氏とクリストフ・マルケ氏の両先生にご登壇いただき、大津絵と欧米の関りについてお話をさせていただきます。テーマは、近代における欧米での日本文化の受容、とくに大津絵の表現がどのように受け止められ、影響を与えたのかという点について取りあげます。これまでにない新しい視点から大津絵を考えていきたいと思ひます。

大津絵



熊倉功夫氏 (MIHO MUSEUM 館長)

民芸運動を牽引した柳宗悦の大津絵への関心について、特に、1930年、米国ハーバード大学附属フォッグ美術館で開催した「大津絵展」を中心にお話しさせていただきます。彼は前年より欧米を旅し、同大学で講義も行うなど、民芸について精力的に紹介しました。当日は、柳が展覧会のテーマとしてなぜ大津絵を選択したのか、その意図から柳の民芸思想を探っていただきます。

※日本文化史、茶道史専攻。主に茶道史や寛永文化研究を主とし、日本の料理文化史や柳宗悦と民芸運動研究も行う。和食のユネスコ無形文化遺産登録を目指す際、検討会会長を務める。国立民族学博物館名誉教授。前静岡文化芸術大学学長。

×民芸

クリストフ・マルケ氏 (フランス国立極東学院院長)

戦前のピカソやルロワ＝グーラン、ゴミス、セラに始まる西洋の芸術家や文化人による大津絵収集の傾向から、彼らがどのように大津絵を見ていたのか、さらに、欧州で開催された民芸展によってミロやピカソなどの芸術家たちが大津絵に出会って影響を受けた点などについてご発表いただきます。



大津絵

※専攻は日本近世・近代美術史と出版文化史。フランスで歌麿、葛飾北斎、中村芳中、河鍋暁斎等の画譜の翻訳復刻を出版。近年は大津絵の研究と著作（『大津絵 民衆的諷刺の世界』角川文庫）に精力的に取り組む。前フランス国立東洋言語文化大学教授。前日仏会館フランス国立日本研究センター所長。

参加費 無料

定員 400人（事前申込み制。定員になり次第、締切ります）

申込方法 普通はがき、ファックス、メールのいずれかにて、「大津絵シンポジウム申込」と明記し、郵便番号、住所、氏名、電話番号をご記入の上、大津市歴史博物館までお申込みください。

※複数人での申込みの場合は、全員の氏名をお書きください。

※住所は、参加証の送付先として使用しますので、代表者様のみでも構いません。

参加証 受付後、参加証をお送りします。※残席がある場合のみ、当日受付をいたします。（12月1日以降、博物館ホームページ上で、残席状況を随時お知らせします。）

申込問合せ先 大津市歴史博物館 〒520-0037 大津市御陵町2番2号  
☎077-521-2100 fax077-521-2666 メール(申込専用アドレス) : info@rekihaku.otsu.shiga.jp

《 大津絵シンポジウム 応募用紙 (FAX専用) 》

郵便番号・住所

電話番号

氏名